

第 18 回 一造会大賞

講評・入賞作品概要

及び一造会のご案内



令和 5 年 10 月

全国 1 級造園施工管理技士の会（一造会）

第 18 回 「一造会大賞」 について

一造会大賞の趣旨

一造会大賞は、一造会会員をはじめ、造園施工管理技術者の技術や努力を表彰・認定するものです。多様な造園の設計、施工、管理、技術開発などの分野や、対象（現場、物件）の大小も問いません。造園技術者の工夫や努力、造園技術者の取り組みとその成果を顕彰することが大きな目的です。

スケジュール

申請受付

5月26日～7月28日

作品締切 ～8月18日

選考委員会

9月15日

一造会大賞選考委員（◎委員長、○副委員長）

◎藤井 英二郎（千葉大学名誉教授）／ ○金子 隆行（一造会副会長）
町田 誠（（一財）公園財団常務理事、横浜市立大学大学院都市社会文化研究科客員教授）
石井ちはる（（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会 理事、技術委員長）
根来 千秋（（公社）日本造園学会関東支部副支部長、東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長）
韓 圭希（（公財）都市緑化機構嘱託、URBANICS 共同代表、釜山大学・鮮文大学客員教授）
松本 朗（一造会常任相談役）／高橋 正敏（一造会関西支部）／石出慎一郎（一造会東北支部）

このほか、支部選考委員の方々のご協力もいただいています。

2023 年 第 18 回一造会大賞

【一造会大賞（最優秀賞）】

造園の新たな領域を考える ～緑化フェアを経験しての思い～

平野 晶也、逢坂 結実、石出慎一郎（東洋緑化株）

【優秀賞】

心のリハビリテーションができる、心温まる屋上庭園をつくる

吉田 巧（株横山造園）

ひとびとに寄り添い続ける鎮守の杜を目指して

藤本 健夫、鈴木 きみ（箱根植木株）

【特別賞】

地域性を活かした風景となる楽園の創出

中辻 勇輝、待野 健太郎、林 卓宏（株石勝エクステリア）

荒川自然公園における施設未利用時間の有効活用について

大恵 真樹、佐藤 悠夏、山下 忍、唐澤 学、松浦 強（株富士植木）

The Villages（ザ ビレッジズ）

齋藤 英、佐藤 勘才（積水ハウス株）、杉田 悦朗（杉田造園株）

1 選考委員長総評

受賞内容は多様で、対象地も北海道から四国に及び一造会大賞の全国的広がりを実感

藤井英二郎 千葉大学名誉教授、一造会顧問

第18回一造会大賞に応募いただいた11件の方々、ありがとうございます。本部7人、東北・関西支部各4人の審査委員の評価結果をもとに審議し、大賞1件、優秀賞2件、特別賞3件が選ばれました。

大賞の「造園の新たな領域を考える―緑化フェアを経験しての想い」は、仙台市で開催された第40回全国都市緑化フェアにおいて造園三団体と花卉三団体で結成された植物調達協議会と市民団体が一体になって優れた会場を整備・維持し、新たな展開の契機になったことが高く評価されました。

優秀賞の「心のリハビリテーションができる、心温まる屋上庭園をつくる」は札幌市内の病院の屋上庭園で凍害・積雪に配慮した周到的設計・施工によって良好な庭園が15年間維持されていることが評価され、同じく優秀賞の「ひとびとに寄り添い続ける鎮守の杜を目指して」は鎮守の杜を拡充する設計・施工で、伐採すらされる近年の傾向に対する警鐘とも云える整備が評価されました。

特別賞の「地域性を活かした風景となる楽園の創出」は介護付高齢者住宅の外構設計と石・植栽施工で大阪・箕面の地域特性を活かした整備が、「荒川自然公園における施設未利用時間の有効活用について」は夜間の手持ち花火イベントや星空観察会などの公園の新たな活用が、「The Villages（ザ ビレッジズ）」は約千坪の広大な個人邸の庭園を継承する施宅・賃貸住宅の設計で造園の楽しさが伝わってくる内容が、それぞれ評価されました。

以上のように受賞内容は多様で、対象地も北海道から四国に及び、一造会大賞の全国的広がりが実感できるものとなりました。受賞に至らなかった応募者も含めて、応募された仕事全体において応募者が果たした役割と全体構成、要点を図や写真に添えながら客観的に記述いただけるようお願い致します。

2 選考委員講評

緑化フェア会場の裏側、創意工夫や努力を垣間みることができた大賞作品

金子 隆行 一造会 副会長（一造会大賞審査委員会 副委員長）、(株)ライフ計画事務所

一造会大賞の各賞受賞者の皆さま、おめでとうございます。

今年の一造会大賞表彰式・受賞者発表会は10月6日(金)にビジョンセンター田町でwebと併用にて開催させていただきます。

今年の選考会は9月15日(金)に藤井英二郎委員長（一造会顧問・千葉大学名誉教授）はじめ、継続委員の7名と今年から（公社）日本造園学会関東支部副支部長で東京都建設局公園緑地部の根来千秋公園計画担当部長に選考委員に加わっていただき開催されました。作品数は12点の応募をいただき、特に北海道や関西からも多くの作品を応募していただきました。

選考会は2時間ほどで、会議室とwebの併用で開催しましたが、委員の方々からは「平均的にレベルは高い、取り組みが多様化していて一造会らしい」とお褒めの言葉をいただきました。反面、「応募者の立場が不明確、設計部門の表現が不足、写真だけではなく図面等の提示も必要では？会社名を伏せているが、表示していただいても選考には問題ない。」というご意見もあり、今後事務局でも応募要項の改善等を検討してまいります。

評価は選考委員の方々ほぼ同じような評価点で、比較的高得点の作品が4点ほど上げられ、その中から3点に絞り込み、1点を大賞とさせていただきました。その他を優秀賞、次に点が高かった作品3点が特別賞となりました。

大賞の仙台緑化フェアは、会員の皆さんも今までの開催のフェアでは何らかの形でかかわっておられると思いますが、全国都市緑化フェアとして初めての受賞となります。また、仙台フェアは今年一造会の総会時に見学会も開催しましたので、ご参加された方、または別の機会にご覧になったか方も多いと思います。今回の受賞で素晴らし

い会場の裏側の関係者の創意工夫や努力を垣間見ることができました。

今年も公益社団法人日本造園学会にご後援をいただきました。10月6日の発表会も一造会、C L A 会員のみならず、多くの学生さんにも発表をご覧いただけると伺っております。一造会では年明けから「一造会すてきな造園空間賞」の募集も開始予定です。こちらもよろしくお願いいたします。

応募して下さった皆様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

意識を変える時

町田 誠（一財）公園財団常務理事、横浜市立大学大学院都市社会文化研究科客員教授

2023年第18回一造会大賞各賞受賞された皆様、おめでとうございます。また惜しくも選に漏れた方々も大変な僅差ゆえ、引き続きご研鑽いただきますよう心からご期待申し上げます。

一造会大賞は一級造園施工管理技士の方々の個人としての仕事の内容を表彰する制度ですが、毎年、作品の中の応募者方のポジションが明確でない例が幾つかみられて、採点作業に多少ストレスを感じておりました。今年もそうした傾向が無かった訳ではないのですが、今までとは違う感想を持ちました。それは、調査・計画・設計や施工、管理・運営といった仕事の中での技術者としての技量が高く発揮されているというこれまでの評価基準への拘りから、多少違う角度からの評価も含めて考えるというフェーズにシフトしていくということなのではないかと思いついたからです。

端的に言うならば、一級造園施工管理技士がもっと幅広い視野から社会システムに対して行っている提案や実践、活動を評価の対象にしても良いのではないかという問題提起です。世の中に流布している職能で言えば、プロデューサーやプロモーター的な立ち回りで、現在の社会全体に貢献する内容、あるいは、将来社会に向けた新しい価値創造に繋がる内容を求めていくという側面があっても良いと感じます。これまでの造園やランドスケープという枠内で求められる「技術」だけでなく、造園やランドスケープ発の総合的な創造性とでも言うのでしょうか。きっとこれからの世の中を切り拓いていく技術力にはそのようなことが求められていくように思います。基礎的な技術力や技能が大切であることに疑いはありませんが、そこに偏重した構えでは開くことができない扉が今の社会にはあるように思います。何事にも先入観や偏見なく、ゼロから再構築していくような構成員が求められる時代になっていると感じます。大賞を受賞された「造園の新たな領域を考える～緑化フェアを経験しての想い～」から、そういうメッセージを受け取りました。

会員の活躍の場が広がり作品も多様化、表現も向上。一方で説明不足もあり今後の作品に期待

石井ちはる（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会 理事、技術委員長

「一造会大賞」の各賞を受賞された皆様、おめでとうございます。そして作品に応募された皆様、ありがとうございました。

今回は、大型遊具整備、公園改修、サーキットと庭園、集合住宅、病院屋上庭園、高齢者施設、鎮守の杜、緑化フェア、公園運営管理など、多様な分野の12作品がエントリーされました。ここ何年かで作品の多様化が進んでおり、ますます一造会会員の活躍の場が広がってきていると捉えています。

今回の多くの作品には共通している傾向があります。応募資料からは、①伝統的な技術を用いて美しく仕上げようとしていること、②地元や現地の素材をどのように活かして取り入れるか工夫していること、③利用者が快適に過ごし楽しめるようにきめ細やかな配慮をしていることなどが読み取れます。分野が異なっているにもかかわらず、技術者として目指す方向は共通していると思いました。

さらに、「造園の新たな領域を考える～緑化フェアを経験した想い～」、「心のリハビリテーションができる、心

「温まる屋上庭園」、「人々に寄り添い続ける鎮守の杜を目指して」などの受賞作品は、取組みや人々との関わりを通じて技術やノウハウを継承していき、次世代を育てていくというこだわりが込められた応募資料であり、応募者の熱意を感じる作品であったことを述べておきます。

一造会大賞も第 18 回を迎えて、年々応募資料の表現が向上してきていますが、一方で、受賞作品も含め平面図がないもの、対象範囲や応募者の役割が不明瞭であるものなど、やや説明不足の応募資料が散見されました。次回に向けて留意していただき、多くの会員が応募されることを期待しています。

一造会大賞の受賞者発表会は、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会の CLA 賞と合同で開催されます。受賞作品の発表を聞くことができる貴重な機会であり、ぜひ参考にしていただきたいと思います。

フィールドの幅広さと様々な立場からの素晴らしい成果。より多くの応募と成果の発信に期待

根来 千秋 (公社) 日本造園学会関東支部副支部長、東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長

第 18 回一造会大賞を受賞された皆様、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。そして、選にもれた皆様、ご応募いただいたことに、何よりも皆様の日頃の活躍に対して敬意を表します。

私は、今回、初めて選考に関わらせていただきました。どの応募作品からも現場での工夫や苦労が伝わってきました。そして、レベルの高さに加え、成果を評価するのか、プロセスを評価するのか、またできあがったばかりのものから長く管理されてきたものまであり、どうバランスをとればよいか、大変悩みました。

こうした審査の中で、2つのことを感じました。

まず一つは、活躍するフィールドが大変幅広いことです。私の仕事柄もあり、どうしても公共分野や大規模な開発事業における活躍ばかりが目にとまります。公園だけでなく、住宅から神社、福祉施設など、本当に多様な舞台で活躍されていることに、ランドスケープの役割、そして造園施工管理技士に対する期待の高まりを感じました。

もう一つは、様々な立場から造園・ランドスケープに携わっていることです。計画、設計から施工、維持管理、運営という様々な段階において、他分野の技術者や地域の方々、公園や施設の利用者などと連携して、素晴らしい成果をあげています。造園・ランドスケープの技術には、自然と人、人と人を結びつけることが求められると改めて感じました。

今後、造園・ランドスケープに携わる皆様の活躍の場をさらに広げ、そして評価してくださる方を増やしていくためには、皆様の成果をしっかりと発信していくことが必要です。今後一層多くの方が一造会大賞に応募して下さることを、また様々な機会を捉え成果の積極的な発信に取り組んでくださることをお願いします。

一造会大賞を一造会だけでなく、造園界全体をよくすることにつなげたい

韓 圭希 (公財) 都市緑化機構嘱託、URBANICS 共同代表、釜山大学・鮮文大学客員教授

受賞者のみなさま、おめでとうございます。私が審査に関わるのも 10 回目になりました。応募された皆さんの確かな技術がまとめられているだけでなく、応募作は年々多様化しており、また応募資料は全体的に高度化している印象があります。嬉しいかぎりです。

受賞された 6 作品ですが、私は以下のような視点から推させていただきます。

- ・造園施工管理技士・造園会社としての職域を意図的に拡げる試みがなされている仕事、
- ・目的や自然条件に対して長年にわたって丁寧に対応されている仕事、
- ・「鎮守の杜」という存在であっても丁寧なケアが必要とされる今日における計画と実践、
- ・老人福祉センターという今後も数が増えていく施設にあってよくできているもの、
- ・公園利用者を増やすためのこれまでの枠を超えた試み、

・「緑を残したい」という顧客に対して真摯に提案・実現する技術を持ち合わせた企業、惜しくも受賞に至らなかったプロジェクトにも、興味深いものがありました。審査員として、一造会大賞というイベントを一造会のみならず造園界全体をよくすることにつなげていきたいと考えています。来年はもっと多くの皆さんからの作品の応募をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

第18回一造会大賞審査を終えて

松本 朗 一造会常任相談役、(株)富士植木 取締役

今回12点の応募数でしたが、出来れば×2欲しいところでした。

応募の内容は甲乙つけがたいものばかり。どの資料も良くまとまっていたと感じました。

一造会大賞は「造園の新たな領域を考える ～緑化フェアを経験しての想い～」でした。

「造園と園芸、花卉の分野が連携」「他社同志の協働作業」極めつけは「一造会としての出展」ということでした。さらに開幕後の管理では、「市民ボランティアとの協働」。

指定管理業務や park-PFI など、造園業界だけでは対処できなくなりつつある昨今。今まで協働することの少なかった人々と一つの物を作っていくという今回のようなケースはますます増えて来るであろうし、その時、我々造園技術者がどんな役割を担えるのかを考えさせられました。周りは確実に変わりつつあります。宮城県からの応募でした。

優秀賞2点の1点は「心のリハビリテーションができる、心温まる屋上庭園をつくる」でした。

庭園完成後15年が経過しており、良好な管理が行き届いているようで、そこも評価できるストロングポイントでした。以前、某市民病院の現場がこのコンテストで高い評価を得ましたが、やはり医療現場と緑は大変相性が良いことが示されたと感じました。北海道からの応募でした。

もう1点は「ひとびとに寄り添い続ける鎮守の杜を目指して」でした。「鎮守の杜」はそれぞれの地域の核となっている緑です。「地域の子供たちと境内でドングリを拾い、育てた苗と一緒に植えた経験は本工事に携わったひとびとすべての共有財産になったと思う。」と結ばれていました。

特別賞3点のうち、「地域性を活かした風景となる楽園の創出」は近年増えてきている高級な高齢者住宅の事例でした。緑による高付加価値の創造が描かれており、緑の価値が分かりやすく描かれた作品でした。この手の現場はまだ増えると思います。

「荒川自然公園における施設未利用時間の有効活用について」は今までの行政主導の公園管理運営ではなかなか叶わなかった「公園の未利用時間の有効活用」であり、民間がやると変わるといい事例でした。

「The Villages (ザ ビレッジズ)」も緑の価値、既存の景石利用など本来の造園の技術が余すことなく使われている作品でした。香川からの応募でした。

その他ですが、「外空間の活用 無為自然な庭造り～アジア初のプライベートサーキットコース～」は上記受賞作に並び評価が高かったのですが、「模型によるデザインの検討」「土壌調査による客土の検討」「日本の美意識」など論点が散漫になったのと「造成切土法面が痛々しい」こともあり選から漏れました。しかし高額な会員権にも拘らず、世界で販売されている会員権販売が好調なのは「日本の美意識」を緑で顕現化したことも大きな要因であり、我々日本造園技術者が世界に誇るところだろうと思います。

最後に、今回地方から多くの応募があり受賞されたことは特筆すべきことです。また、設計施工一括受注や指定管理などより作業の自由度が高い作品が多く応募されていたことを考えると、ますます我々造園技術者が多くの知識と知恵を活かす必要があると強く感じました。その分、ますます楽しめます！

造園楽し一造会！！

お客様の笑顔が浮かびます

高橋 正敏 一造会幹事 関西支部、関西造園土木(株) 常務取締役

第18回一造会大賞に応募された皆様、ありがとうございました。一造会大賞・優秀賞・特別賞を受賞された皆様、おめでとうございます。関西支部から選考委員として審査に携わらせていただきました。作品選考を行うのは毎回大変な作業で何度か読み返しながら、応募された12作品を審査させていただきました。

一造会大賞「造園の新たな領域を考える」～緑化フェアを経験しての想い～ 第40回全国都市緑化フェア開催にあたり、緑化フェアでの植物を生産、調達、納品を担う組織として仙台フェア植物調達協議会が結成されたことで、課題についてもお互いの強みを生かし、弱みを補完し合う事で材料調達が出来たかと思います。

作業についても課題は多くあったかと思いますが、造園三団体の造園技術者のノウハウ+綿密な計画をされた結果、大量入荷も裁けたのではないのでしょうか。

管理についても市民ボランティアとの協働作業をされたことで、市民ボランティアの方の緑化フェアに携わっているとの意識が高まり、参加者の方による緑化フェアの広報、PRの相乗効果もあったと思います。

緑化フェアに行かれた方から話を聞く機会があり、何か癒されたと笑顔で楽しそうに話してくれたことが印象に残りました。

今回造園業界が設計から管理まで、主体となる緑化フェアの開催と、市民ボランティアとの協働作業、ケヤキ並木の幹洗浄奉仕活動を通し造園業界の存在や活動内容が認知されたと思います。造園業界にとって大きなことであり高く評価させていただきました。

その他の各種受賞作品も、造園技術者としての視点での課題、お客様視点での課題に対する取り組みを評価させていただきました。忙しい業務の中、応募いただいた皆様ほんとうにありがとうございました。

『造園』は、やっぱり楽しい、凄い、魅力ある業界へと。

石出慎一郎 一造会幹事 東北・北海道支部、東洋緑化(株) 代表取締役

今回の応募数12作品、ジャンルは設計3点、造園工事5点、管理業務2点、その他2点と多様なものになりました。これは造園業界の多様化にも通じるものと思われます。個人的にはその他のジャンルが多くなると面白くなるような気がしています。造園業の領域は広がる一方で、農業を営んでいる方、学校など教育機関に出向いている方、清掃業も行っている方など多種多様です。造園業はアメーバのように時代に合わせ柔軟に対応できる業だからこそ歴史も長いのでしょう。

さて、受賞された方々おめでとうございます。また惜しくも賞を逃した方もお疲れ様でした。受賞作品はどれもレベルが高く内容も面白いものでした。地方色も出ており、札幌、仙台、大阪、香川と東西から応募されました。

私も支部長として、作品応募を勧めると、大きい工事や現場が無い、最近は受注していない、目立つようなことをしていないなどの理由を良く聞きます。

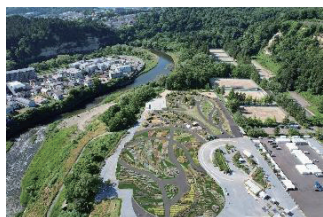
しかし、我々は息の長い、結果が直ぐに表れない生き物を扱っている商売なので、過去の現場の今や長年維持管理している場所、異業種とのコラボなどまた、良くなったものや悪くなったものなど多様に題材はあると思います。

また、一造会会員の推薦での応募も可能なので自社だけでなく、他社の取組事例など思い起こして奮って応募ください。自己評価せずに応募（参加）してみることが大事です。思わぬ結果が出るかもしれません。審査員も多様な立場の方がおり評価ポイントはそれぞれです。

第19回一造会大賞も既に始まっているようなものですので、実際の応募まで視点を変えて見渡してみてください。第20回は節目となるので、なにか思考を凝らしたものにしたいですね。

◇はじめに、

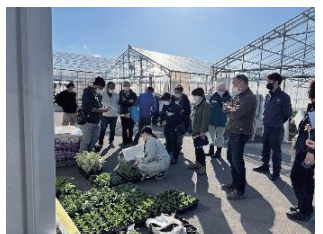
第40回全国都市緑化仙台フェアは、今年4月26日から6月18日まで54日間開催された。メイン会場（青葉山追廻、広瀬川、西公園）、まちなか会場（青葉通り、定禅寺通り、宮城野通り、仙台駅ペデストリアンデッキ）、および沿岸部の東部会場、連携会場で構成された。フェアの開催意義のひとつとして、新たな「百年の杜づくり」みどりと親しむ生活と新たな交流の創出が掲げられた。県内の多くの造園芸会社が携わった中、弊社は、フェアの施工側の代表と定禅寺通りの修景、大花壇を含めた花苗管理と多く係わったこともあり、フェア全体を振り返り、開催意義から造園業界の発展に向けて今後について考えてみたい。



メイン会場南側と大花壇

◇他業界との連携

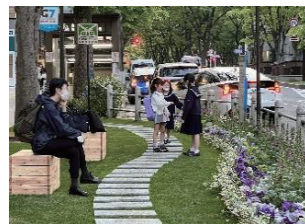
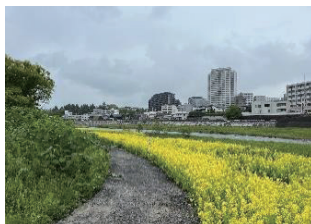
地元造園3団体と花卉3団体から成る仙台フェア植物調達協議会が、計画生産・調達から納品までを行う目的で3年前に結成された。その代表に弊社社長が就任し造園業界が当初より主体的にフェアに携わるという新たな体制で臨んだフェアであった。開幕1年前に概算量が示され、最終的に約650種類39万株の植物を納めた。花卉流通で揃わない花苗を造園ルートで手配するなど、それぞれの業界が協力して調達業務を行った。更に、発注者に要望し施工と管理・撤去までを業務に含めめる事で一貫してフェアを支え成功に貢献できた。特に施工時の花苗納品計画とその仕分け管理は、納品日や量について生産者側と意思疎通ができたことは非常に成果があった。



生育確認と入荷管理

◇業界内の結束と新たなみどり空間の提案

フェア開催半年前の事業として、9月に日本一の街路樹である青葉通りと定禅寺通りのケヤキ並木の幹洗浄を造園3団体から約80社160名余の人数で行い業界内の結束と社会に向けたアピール活動となった。その後、11月からは大花壇の秋植え施工が始まり、県内造園関係で延べ1,300名余の有志が大花壇の作業に携わった。大花壇など労務が必要な箇所は、各社から作業員提供を貰う協同施工とし、まちなかエリアなど単独で施工できる箇所は請負形式としたことで労務確保と責任施工が業界内を一体とし円滑作業で開幕を迎えることができた。みどり空間の新たな提案として、市民園芸団体等と協力して提案、作庭した住まいをテーマにした杜のびんがガーデン、広瀬川岸の菜の花緑化や、まちかど歩道部の緑化など、今後のまちづくりに活かせる相違工夫も行った。



広瀬川とまちかど

◇造園業界の発展へ

花壇管理は、市民ボランティアを募集したところ予定の倍以上の応募があるほど好評で、日々、我々業界が引率指導しながら花管理を行った。市民との協働のチカラが一体化し閉幕まで綺麗な状態を維持できた。今回のフェアを通して、行政と造園業界、更に他産業との協同や連携、市民との協働で行動することが、造園業の領域を広げ、街の活性化やまちづくりに貢献し発展する業界になっていけるのではないかと。フェア後の新たな百年の杜づくりの中心となり、また今後開催されていく街が変わっていくことを願う。

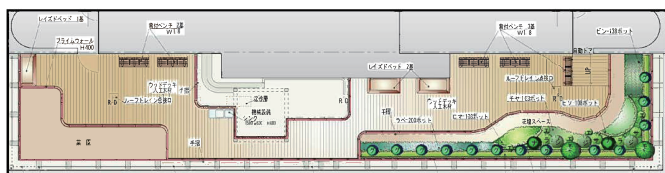


市民ボランティアと造園団体

1. 工事概要

本工事は北海道札幌市内にある脳神経外科病院の屋上に、庭園と菜園を造成した現場になります。

屋上は5階で庭園造成面積は約250㎡、既存のウレタン防水の上に庭園を造成する計画で設計しました。車椅子やリハビリを行う患者さんの安全を第一に考え、バリアフリー型屋上庭園の設計及び施工を行いました。

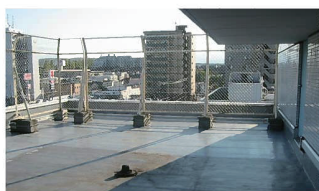


2. 基本コンセプト

『心と体のリハビリテーションができる脳の総合病院を目指す』という病院の基本方針に基づいて計画しました。院長の具体的な要望内容は、患者さんや職員が庭園で自由に散歩を楽しんだり、リフレッシュしてリハビリを行うことができ、菜園では野菜を育てそれを収穫して楽しむことができる、というものでした。

3. 施工

病院は築40年と古く漏水が懸念されることから、既存のウレタン防水の上に全面防水工事をする計画としました。耐久性と柔軟性があり、他の工法よりも軽量である厚さ1.2mmのゴムシート防水材を採用し丁寧に敷設しました。



着手前現況 既存ウレタン防水



全面ゴムシート防水

花壇仕切材には両面化粧土留枠（H400型）を採用しました。この土留枠は中が空洞であり、軽量化を図った屋上庭園用の資材になります。

花壇内部の構造は、面状排水材、耐根シート、貯水ボード、透水シート、ワイヤーメッシュの順に配置しました。ワイヤーメッシュはスコップ等による人為的な下部構造の損傷抑制のために設置しました。花壇排水口の目づまり防止のため酸素管を配置し、冬期間の凍害による花壇仕切材の破損抑制のために、花壇の内側面に厚さ30mmのスタイロフォームを設置しました。



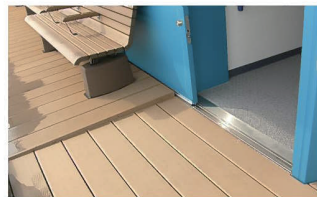
酸素管、ワイヤーメッシュ



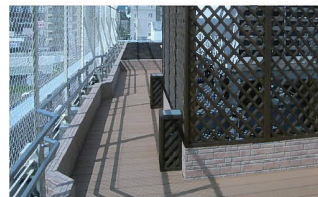
スタイロフォーム

リハビリ中の患者さんがゆっくり休養できるように可動式の背付きベンチを5基配置し、通行部にはステンレス製の手摺りを設けて安全に配慮しました。車椅子の患者さんのために、出入口の段差をなくしスロープをつけ、車椅子でも花植え作業等がしやすい高さの木製プランターを3基配置しました。

屋上の中央部に既設の空調冷却機器があり、車椅子の通行が困難と思われた箇所がありましたが、通行幅の確保を最優先に施工しました。基本的に患者さんにやさしい『バリアフリー構造』になるように心掛けました。



出入口の段差解消スロープ



車椅子の通行幅を確保

病院の庭園プロジェクトスタッフと一緒に考えてつくりました屋上庭園が完成し、『ハートフル ドリーム ガーデン』という名称で開放しています。

残念ながら冬期間は積雪のため閉鎖していますが、毎年春になると樹木が芽吹き、四季彩る草花を觀賞したり、菜園で野菜を育て収穫したりと、患者さんにとって心と体のリハビリテーションの場になっています。



患者さんがリハビリ中



屋上庭園の出入口

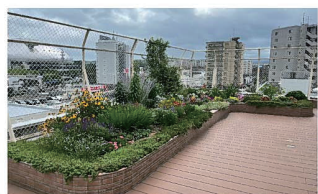
4. 施工後の経過と考察

2009年6月竣工から今年で15年が経過し、現在も患者さんと職員のみなさんがコミュニケーションをとる事ができる『心温まる空間』になっています。

北国の屋上庭園では凍害対策や積雪を考慮した設計をする必要があります。例えば、花壇内に施したスタイロフォームの設置は、寒冷地では凍害を受けないための必須対策になります。花壇内の下部構造の損傷抑制のため敷設したワイヤーメッシュや、出入口のウッドデッキのスロープ対策、また車椅子の通行幅の確保優先など、我々技術者は常に顧客目線になって、少しでも創意工夫を取り入れながら現場を進めていくことが何より大切だと考えます。



2023年7月現況



15年後も生育は良好

ひとびとに寄り添い続ける鎮守の杜を目指して

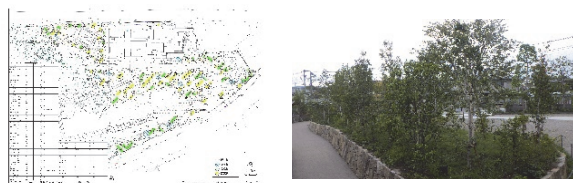
藤本 健夫、鈴木 きみ（箱根植木(株)）

工事概要・コンセプト

川越氷川神社の「杜」は長い神社の歴史と共に生き、皆に親しまれてきた「杜」である。本工事「氷川の杜整備計画」では、氷川の歴史を共に歩んだ「杜」が継続されつつ、これからも神社が人々のよりどころとなり、更に人々と神社が共に成長していくことができるような緑地整備が求められた。旧氷川会館の大部分を既存の杜との連続を考慮した杜とし、「杜と杜、ひとと杜、ひととひとが繋がる」をコンセプトに植栽計画の設計・施工を行った。植栽全体監修は東京農業大学客員教授 濱野周泰氏、施主、設計事務所等の調整を(株)はこねフローリストが行った。

1. 植生遷移を意図した緑地計画

本計画地のメイン緑地では植生遷移の一段階前である常緑樹と落葉樹が混ざった雑木林を創生し、高さや樹齢の異なる常緑・落葉が組み合わせられた成長と変化の勢いを持った樹林を目指すこととし、林縁部・樹林中央・ドングリの苗木植樹部で、連続している遷移の段階を3種程度、想定し組み合わせた。また、「子供と共に育つ杜」として、境内で採取したドングリを子供たちが苗木に育て、植樹し、杜づくりへ参加することで杜と共に大人となり、さらに次世代の子供へと引き継がれる大きなサイクルとなり、地域と共に親しみのある杜へ成長していくよう計画した。杜は100年以上の年月をかけ成熟していく。



また、既存の流れから背後の新河岸川に繋がるかのように流れを延長した。氷川神社の名に相応しく水もまた杜とひととを繋ぐ存在であることを心地よい風や水音と共に体感できる。

2. 繋がりを意識した施工

鎮守の森づくりをさせていただくという心構えで、「繋がり」を意識して工事を進めた。

① 「時間的つながり」

この先千年、二千年と地域の人々に愛される空間となるよう「丁寧な積み上げ」を意識して品質的にも見栄え的に

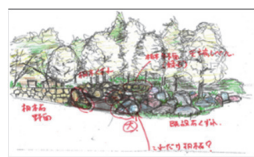
もこの空間にふさわしい仕上がりを日々目指して施工にあたった。またメンバーも熟練した技能工から若手までそろえ、若手への技術の伝承も意識して配置をした。

② 「空間的つながり」

以前からこの空間があったかのような印象を与えられるよう工事を進めた。既存の流れとの接合部は、神社に保管してあった石も使用することで自然な繋がりとした。人と水との接し方・繋がりや各所、趣・表情を変えることを意識して施工した。



また参道北門にあたる外周部の石積みでは、既存石積みとのつながりや仕上がりについてイメージ図を現場で作成し、施主を含めた関係者全員でイメージを共有し工事をすすめた。



③ 「人との繋がり」

地域の子供たちが境内のドングリを拾い家庭で苗木を育て植樹するイベントを実施した。ドングリの種類や境内にあるドングリ、杜を育てることとSDGsとの関連、子供たちに託す杜の将来像などのレクチャーも同時に行った。



3. 施工を迎えて

地域に親しまれている神社の空間ということで、参拝者、地域の方々とのふれあいの多い現場だった。地域のひとびとの神社への想いをカタチにするという想いを強くした。とくに地域の子供たちと境内でどんぐりを拾い、育てた苗と一緒に植えた経験は本工事に携わったひとびとすべての共有財産となったと思う。

地域性を活かした風景となる楽園の創出

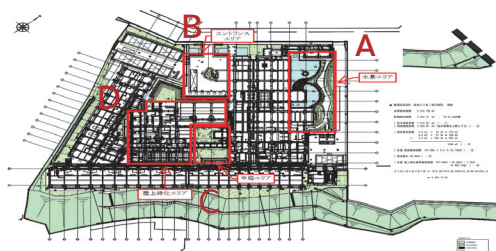
中辻 勇輝、待野 健太郎、林 卓宏（株）石勝エクステリア

1. 工事概要

本工事は大阪府豊中市で計画された大手不動産会社の一般居室と介護居室を併せ持つサービス付き高齢者施設である。地上部の植栽地は約 2,000 m²あり、南側斜面緑地は約 4,200 m²、屋上緑化は合わせて約 620m²を有する。その大規模な空間に地域性を活かした自然豊かな環境の実現に向けて当社は設計協力と施工を請け負い、竣工後は維持管理も請け負っている。

2. 地域性を活かした空間設計と楽園の創出

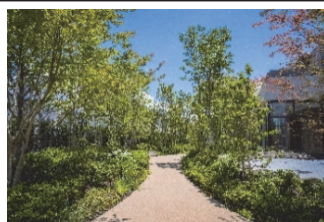
近接する箕面の山々から連なる丘陵地の大らかな環境に沿った植栽として、エントランスの人の空間から建物内部に向かって徐々に自然度が深く移り変わっていくことを想起するストーリー性を持たせている。



【A】水景エリアはエントランスホールに入り、真っ先に目に入るエリアで施設利用者の休憩所、食堂からも一望できる景観の中心となる空間で、散策路としても利用ができる。全体の引きが無い中で 80cm 程度の築山の上の後景に H6m クラスの常緑高木、中景として落葉性小高木、散策路を挟んで水辺の前景としての紅葉という里山の自然構造に倣った多層構造を実施。山から水辺へのダイナミックな変化を見せる縮景として日本庭園の技法を活用し幽玄な自然を創出するよう心掛けた。

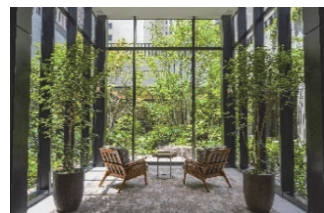
【B】エントランスエリアは中心に H8m のシンボルツリーをメインに 4t クラスの巨石と竪で高級感を演出。落葉樹をメインとし、山取りのアセビなどで全体バランスを整え低木地被にはツツジ・ヤブコウジなど在地種を基調とし周辺環境に沿った雰囲気とした。山取りのアセビは協力業者が所有する約 30 km離れた山から調達して施工を行った。

【C】中庭エリアは通路を挟んで南北に分かれた四方ガラス張りの吹き抜けとなっている為、H60cm の築山を作る事でガラスから見切れるように配植し景石で土留めをしながら縦方向への開放感を再現した。



散策路（左）、エントランスから見える水景と散策路（右）

【D】屋上緑化エリアも散策路と同様、四季の移ろいを感じる歩行弱者も楽しめる遊歩道にしたいという要望があり屋上にも桜・紅葉・マンサクなどを使用し、北側では箕面の山を借景とするために高さを抑えたハーブをメインに配植し、香りでも楽しめるようなガーデンとした。



中庭（左）、箕面方面の山の借景（右下）

3. 施工上の工夫

関西の土壌は真砂土がベースとなり真砂土だけでは有効水分量の確保ができない為、高木にはパーク堆肥＋黒曜石パーライト＋汚泥コンポストを投入し、低木地被が植わる場所には全体的に投入し攪拌した。（深さ 30 cm 程度）

4. 維持管理と園芸療法

竣工後の維持管理作業について、基本的には剪定・除草・薬剤散布・土壌改良をメインとして行うが、園芸療法の一環として利用者様と一緒に寄せ植えを予定しており、今後も様々な植物に関するイベント活動を期待されている。

5. おわりに

利用者の年齢層を踏まえた上でも周辺環境に寄せた計画を行う事で、居心地の良い癒しの楽園になる空間が実現出来たのではないかと思います。現場で施工するにあたり、図面通りに進めるだけで無く、事業主やデザイナーが現地で感じた感覚や意見に合わせて、より美しく見える方法を現地で考え提案するウォークスルーによって計画時の想像以上の空間を生み出していく事が造園の付加価値醸成には重要であり必要と考えている。我々施工サイドは少しでも良い品質で計画意図を実現して美しい物を作るという事を第一に、施工の工夫を惜しまず考え、新たな方法を生み出す事が大切であると改めて実感した。

荒川自然公園における施設未利用時間の有効活用について

大恵 真樹、佐藤 悠夏、山下 忍、唐澤 学、松浦 強 (株)富士植木

1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大によってイベントの中止が余儀なくされたことで、コロナ禍におけるイベントの検討を行い、その過程で浮かび上がったのが、「施設の未利用時間の有効活用」となります。



2. 手持ち花火イベント

公園等では原則、火気厳禁であり、住宅街で花火ができない昨今の風潮もあることから、花火を楽しめる場所が少なく、夜間に閉園する荒川自然公園内のオープンスペースを活用する案が上がりました。密を避けるために、滞在時間と人数に制限を設け、夏ならではの企画として実施する運びとなりました。参加者の方に実施したアンケートでは、ほとんどの方から「満足した」、「また参加したい」、「家の周りではできなかったので、子供と初めて花火ができて良かった」などの好意的な意見をいただいております。手ごたえを感じています。今後は、募集人数を増やすことで幅広く多くの方に参加の機会を提供するとともに、火傷や火災等の安全面強化にも注力して展開していきたいと考えています。



3. 星空観察会

荒川自然公園は三島島水再生センターの上という特殊な場所に造られているため高い位置にあり、公園の周りに樹木も多く植えられているため、周囲の街灯の光に邪魔されずに星空の観察ができます。「星空の学校」を講師として招き、スクリーンを使用して月や惑星などの勉強会を行った後に、実際に望遠鏡で月、土星や金星などの観察を行いました。星が見えない曇天時でも楽しめるよう、園路に惑星の模型を設置して解説を聞きながら、実際に惑星間の距離を歩く惑星ツアーを企画したり、スカイツリーなど公園から見えるランドマークを見てみたりなど他の内容も用意しています。自由参加型の観察会とは違い、定員制にしたことで、参加者1人への解説の時間を確保することが出来たため、興味関心の高い参加者からのディープな質問への対応ができ、アンケート結果からも満足度の高いイベントができました。



4. テニス体験

オムニコートの使用率は高いものの、ハードコートは空きが目立つ状況でした。テニスを通じた新たな交流を促して、仲間と一緒にプレイを楽しむ機会を増やすことでテニスコートの利用率アップを目指しました。ラケットを持っていない方でも気軽に参加いただけるように無料貸出の準備もしました。ルールやマナーを覚えながら一緒に楽しむ仲間を増やしていただけるよう、テニスのコーチ歴が15年ある指導経験豊かな講師を招き、1日で完結する内容にすることで、より手軽な参加を促すことを検討しました。また、6～9月の利用者が少ない平日に実施しています。テニスをはじめてされる方向けにラケットの持ち方から、基本のショットの打ち方を紹介する「はじめてコース」と、テニスの経験が少しある方向けに、ラリーの楽しさを体験していただき、ルールを学んだうえでゲームにも挑戦していただく「ゲームに挑戦コース」の二通りのコースを用意して、初めての方も、経験者の方も楽しんでいただけるように配慮しました。テニスをしてみたいけれど一人ではできなくて悩んでいる方や、既存のテニスチームに参加するのはハードルが高くて困っていたという参加者もいらっしゃいました。今後は本イベントのリピーターを中心として、継続してテニスコートを利用してもらえるように、チーム作りのサポートをしていきたいと考えております。



5. 終わりに

今までのイベントでは、工作であれば工作の中身を検討して・・・といった流れでしたが、今回の「施設の未利用時間」という観点でイベントを考えると、「このスペースで何ができるか?」「この時間だからこそ、楽しめるイベントは何があるだろうか?」という目線を持つようになりました。また公園の禁止事項で、注意の頻度の高かったようなことも、需要が高い＝イベントにすれば多くの人が楽しめる事として捉えられるようになりました。今後も利用者の皆様の窮屈な思いを少しでも和らげ、新しい公園の楽しみ方を模索していきたいと思えます。

The Villages (ザ ビレッジズ)

齋藤 英、佐藤 勘才（積水ハウス(株)）、杉田 悦朗（杉田造園(株)）

1. 工事概要

約5,500本の松林で知られる都市公園に隣接する約1,000坪の敷地には築80年を超えるご自宅と、多くの樹木が植えられた広大な庭がありました。

「この庭を継承したい」とのオーナーの思いを実現。既存の5本の樹（4本の大きなクスノキとマツ）や100tを越す石庭の景石や間知石。余すことなく造園計画に盛り込みました。

建築は施主宅、低層（2階建て）賃貸西棟、東棟の3棟。賃貸住宅としては非常に珍しい大型犬入居可住宅。

用途地域は2種中高層。2階建てである必要はないが、

■主庭の重要性 □各部屋から庭が近い事の重要性

□高層建築で庭を囲い込む閉塞感を嫌う

■低層住宅での邸宅感を演出

□近隣の個人住宅への採光配慮

等の理由で低層住宅を計画した。



2. 後世に残す既存石

現地には大量の石材（石庭、土留めの間知石）が使用されていた。この石を全て処分する案も出る中、全て残し使い切る計画を提案した。石の天端を出し敷地内の何処でも座ってコミュニケーションの取れるベンチに利用。

中高木とセットにして木陰ベンチと名付けました。間知石はメインの丘庭土留めに使用。東棟のアプローチとなる間知石の土留めは美しく再生した。

エントランス入口には一番大きな8tの石を設置。銘板を付けシンボルとした。エントランスの床には超大盤の沓脱石を地面に埋めた。敷地の壮大なスケールにともなうエントランスとなった。



3. ペDESTリアンデッキ

西棟と東棟を繋ぎメインの丘庭を囲むように設けられたペDESTリアンデッキ。

人と人、人とペット、都市公園とTheVillagesの丘庭。この要素をつなぎ合わせるデッキが完成。

このペDESTリアンデッキの前には庵治石で組み上げた石門柱を設置。道路際へ設置する事で程よいクローズ感を出した。



4. 愛犬家のために。大型犬と一緒に住める集合住宅

「The Villages」にはもう一つこだわりがあります。

それは、人と動物と一緒に快適に過ごせる住空間にすること。もともと犬が大好きというオーナー様。

「大型犬も一緒に住める条件にすることは、メンテナンスの面で反対意見もありました。しかし貸別荘のような集合住宅にしたいという信念を貫きました。コンセプトにちなみ大小2匹のワンちゃんを敷地にデザイン。



5. 樹木探しに西へ東へ

その場所その箇所に最適な樹木を選ぶ。

様々な樹形の木に出会うため、鹿児島から関東まで材検に足を運びます。今まで圃場に数えきれない位足を運んでいますが、未だに驚きの連続です。胸がドキドキするような木を見つけては現場に入れる。楽しい仕事だといつも感じながら仕事させて頂いています。

関わって頂くすべての方々に感謝しております。

国家資格「1級造園施工管理技士」による唯一の全国組織です

一造会は、造園技術のレベルアップを図り、みどり豊かで潤いのある環境づくりに寄与することを目的に昭和63年に発足。国土交通省をはじめ、地方公共団体など公共公益機関にもその役割が高く評価されています。1,000名を超える知識、技術、経験豊かな会員が入会しています。



各種研修会・現地視察を実施 技術のレベルアップを図ります

技術の向上を主たる目的とし、多様化、高度化する造園工事に関し、最新の知識・技術の習得はもちろん、安全管理や法規、制度などについても学ぶ機会を設けています。街路樹、植栽基盤、高所作業と安全などは、最近特に関心を集めており、今後もこれらの各種研修会を開催。一般参加も可能です。最新情報はWEBをご覧ください。



技術調査・視察報告など、広い知見、深い専門性を養います

造園技術に関する技術調査や視察報告を実施するほか、行政、市民などからの要望に応じ、剪定実技など講師の派遣も実施。お声掛けください。



技術者の交流で親睦を深め ネットワークをつくります

一造会の研修会や見学会の機会に、懇親会「造園家の仲間と語る会」を年に数回実施し、交流を図っているほか、会報や報告書を発行し、会員相互の情報交換に役立てています。

専門家・業界の枠を超え交流 市民交流会で広く情報を発信

公園・緑地などの社会基盤は、急速な勢いで整備されました。しかし、これからは管理や地域、環境に見合った緑、

一造会のご案内 全国1級造園施工管理技士の会

Ichizokai

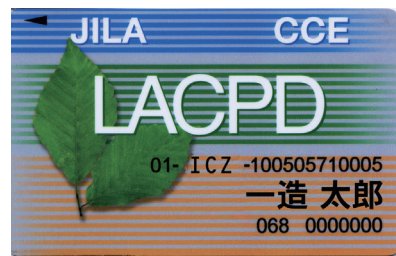
公園・緑地・広場・花壇・ビル・マンション外構 etc
造園空間は私たちにお任せください

市民のための街づくりが大切。そんなニーズに応えるのが「一造会 市民と造園家の交流会」。市民と専門家・技術者との交流の場を創出します。

ホームページやメーリングリスト等、情報ツールも充実

直接会員の皆様に送付する会報や各種案内のほか、ホームページやメーリングリスト、FaceBookも稼働しています。「いま現場でこんなことが…対処法は?」「部材が余ったけど誰かいる?」など、造園技術者同士ならではのフォローもあります。

最新情報は
一造会 web
Facebook+
へアクセス



「造園CPD」への参加なら「一造会会員」がお得です

継続教育プログラムの「造園CPD」に参加するには、直接申し込むと、年会費4,000円です。所属会社で割引適用が受けられても、個人負担額は2,500円になります。一造会は会費のみでCPD負担額なし。入会すると、磁気リーダーで受講記録が付けられる造園CPDカードを送付します。

申込は郵送、FAX、ネットでOK 法人一括の入会も可能です

一造会へは、パンフレットやホームページでご入会いただけます。会費は入会金不要で、年会費は、正会員1名6,000円。個人でも法人で取りまとめた入会も可能です。また、会費の法人一括納入割引も導入し、経費節減にも役立ち、造園CPDをはじめ、技術者の知識や技術の向上を図ることが出来ます。



賛助会員も大歓迎で募集中 詳しいお問合せはお気軽に

一造会は5月1日が新年度です。正会員のほか、「1級造園施工管理技士」の資格をお持ちでない個人、法人の方々も賛助会員(1口30,000円)として、ご入会いただけます。この機会にぜひご入会ください。

全国1級造園施工管理技士の会(一造会)【事務局】

〒150-0041
東京都渋谷区神南
1-20-11 造園会館内
TEL:03-6455-0426
FAX:03-6455-0427
URL:www.icz.jp
E-mail:info@icz.jp



全国1級造園施工管理技士の会（一造会）とは

一造会は、昭和63年6月18日、一級造園施工管理技士の会「関東甲信・一造会」として発足しました。

発足にあたって、①公共工事の増加に伴い、多様な施工技術と高度な管理技術が要求され、技術的情報の必要度が高まっていたこと。②造園工事の採算性の悪化がいわれる中で、何が問題点かを具体的に指摘できる技術者の連携が必要だったこと。③労働条件の改善が進む中で、休日出勤、残業、徹夜など、就業実態を見つめる必要がでてきたこと。④造園工事の施工規模から現場に埋没しがちであった技術者が、次世代を担うべく社会的視野を持つ必要があったこと。⑤緑に対する関心が急速に高まる中、発注者、設計者とともに技術人として一致協力し、良いものづくり、また、造園界の社会的地位向上を目指す技術者の集う場が望まれるようになっていたこと――などの社会的背景があったからです。

こうして、（一社）日本造園建設業協会（日造協）の技術委員会のメンバーが中心になって設立準備を進め、一級造園施工管理技士資格取得者の多い関東甲信地域に所在する日造協会員会社の資格取得者を会員として、「関東甲信・一造会」が発足。その後同様の会が各地域に設立されました。

その後、全国団体としての要望と、造園工事業の指定業種への動きから、一級造園施工管理技士の役割がさらに重要になり、平成5年10月29日の臨時総会をもって発展改組。現在の「一造会（全国一級造園施工管理技士の会）」として、新たにスタートし、さらに、平成24年5月24日、全国1級造園施工管理技士の会（一造会）に改称して、現在に至ります。

一造会はこれまで、さまざまな技術研修会、現場見学会、海外技術視察見学会などを行い、国土交通省など官庁関係の技術者や日造協からも一造会の活動については高い評価を得、会員同士の交流や活動を通して、広く活躍を続けています。

全国1級造園施工管理技士の会（一造会）運営組織図

顧問	
顧問	勝野 武彦
顧問	熊谷 洋一
顧問	鈴木 誠
顧問	樋渡 達也
顧問	藤井英二郎
顧問	菱茂寿太郎
顧問	涌井 史郎

相談役	
常任相談役	松本 朗
相談役	加勢 充晴
相談役	坂元 博明
相談役	佐藤 岳三
相談役	佐藤 四郎
相談役	高橋 一輔
相談役	松田 武彦

フェロー	
フェロー	卯之原 昇
フェロー	梅森 雄治
フェロー	岡田 茂樹
フェロー	荻野 淳司
フェロー	梶井 直和
フェロー	竹嶋 正實
フェロー	立山富士彦
フェロー	辻岡 敬
フェロー	福成 敬三

幹 事 会

常任幹事会（太字）

関西支部

支部長

富内 匡

梶原 宏幸

加藤 友規

住友 達也

高橋 正敏

塚本 敏夫

中島 洋一

信原 元樹

藤原 圭介

山田 耕三

会 長

南波 拓哉

副 会 長

金子 隆行

副 会 長

佐藤 英介

副 会 長

藤本加奈子

幹 事 長

石井 匡志

副幹事長

田上 貴

副幹事長

西上 陽子

会計幹事

泉地 善雄

会計幹事

中川 京子

東北・北海道支部

支部長

石出慎一郎

荒木 正也

草薨 大蔵

田中 秀穂

廣部 修平

教育訓練センター

センター長

森田 弘行

広報部会

広報部会長

黒子 典彦

広報副会長

久郷 慎治

広報副会長

齊藤 典之

広報副会長

堤 明伸

広報副会長

野上 一志

広報副会長

野木 茂樹

広報副会長

水崎貴久彦

広報部員

櫻井 秀忠

広報部員

佐々木創太

広報部員

菱川 清

研修部会

研修部会長

角幡 大亮

研修副会長

金川 繁男

研修副会長

櫻田 邦明

研修副会長

笛木 学

研修副会長

渡部 俊介

研修部員

楠本 文彦

研修部員

清水 孝真

研修部員

山岸 信幸

研修部員

山田 耕三

技術部会

技術部会長

諸井 泰司

技術副会長

梶川 昭則

技術副会長

西上 大輔

技術副会長

室橋 智

技術副会長

渡邊 健幸

技術部員

岡島 信之

技術部員

田村 賢二

技術部員

橋本 潤

技術部員

守安 省吾

技術部員

山本 実

監事 高橋 光彦
監事 中村 秀樹



一造会 HP
QR コード



一造会 facebook
QR コード

(50 音順)

2023 年 10 月現在

ご入会はいつでも受け付けております！ 造園技術者の方々のご入会をお待ちしています。

1 級造園施工管理技士の資格をお持ちの方は「正会員」として、その他の法人や個人の方は「賛助会員」として、ご入会いただけます。詳細は一造会 HP の「入会案内」をご覧ください。事務局 info@icz.jp まで、ご連絡ください。



一造会は、国家資格「1級造園施工管理技士」資格取得者を正会員とする全国組織で、より良い環境の創出・保全を目指し、市民交流や技術の向上、知識の習得を図っています。

【一造会賛助会員】アゴラ造園株、飯島興産株、株石勝エクステリア、入交コーポレーション株、内山緑地建設株、株苑友造園、オーセブン株、大貫石材工業株、加勢造園株、株桂造園、(有)峴農園、ゲンゼグリーン株、株サイニチ、株椎橋商店、株CSS技術開発、株昭和造園、住友林業緑化株、西武造園株、造園施工管理技術研究協会、株ダイショーフォレスト、株タカショー、株高橋植木、(有)ツリークライミングワールド、東武緑地株、株中村製作所、西尾レントオール株、日日石材株、フォレストガーデン、株富士植木、株ブリッジ、北部緑地株・草屋舎、株丸山製作所、NPO 緑の大地会、株柳島寿々喜園、株山梅、株ライフ計画事務所、株ランド【会員随時募集中】

一造会の詳細は下記をご覧ください



ホームページ



FaceBook